

# ラグビーワールドカップ2019 ジャパン大躍進！

ブレイブ・ブロッサムズ（勇敢な桜戦士：ラグビー日本代表の呼び名）が大躍進し、目標の決勝トーナメント進出を決めました。世界ランクも11位から7位（10/19現在）まで上がり過去最高を記録、また開催前は盛り上がりに欠けていましたが、ジャパンがロシアに勝ち、下馬評では圧倒的不利であった、試合日当日に世界ランク2位のアイルランドに勝利した頃には、ラグビーファンが一挙に増加しました。3戦目のサモア戦では視聴率もうなぎ登りとなりました。30～40年前前の大学ラグビー全盛の頃のように、多くの日本人の目に世界最高峰のプレーが展開され、この競技の面白さが日本国民の中に再評価されてきました。老若男女がラグビーの真の面白さに目覚めたのです。ーラグビーファンとして、このことは何より嬉しいことです。

◆日本代表のティア1（伝統上位国・地域）全対戦成績◆

WR	対戦チーム	戦績	勝利・分け	スコア	種別
①	ニュージーランド	7戦全敗	—	—	—
②	アイルランド	10戦全敗	—	—	—
③	イングランド	12戦全敗	—	—	—
④	ウェールズ	1勝15敗	2013・6	23○8	テ(H)
⑤	南アフリカ	1勝1敗	2015・9	34○32	W杯
⑥	オーストラリア	9戦全敗	—	—	—
⑦	フランス	1分け9敗	2017・11	23△23	テ(A)
⑧	スコットランド	1勝10敗	1989・5	28○24	テ(H)
⑪	アルゼンチン	1勝5敗	1989・9	44○29	テ(H)
⑭	イタリア	2勝5敗	2014・6	26○23	テ(H)
			2018・6	34○17	テ(H)

【注】日本協会認定のキャップ対象試合。WRは27日現在の世界ランクで日本は9位。黄アミは19年W杯1次リーグA組対戦チーム。テはテストマッチ、Aはアウェー、Hはホーム。ティア1戦績は90戦6勝1分け83敗

①

ラグビー 世界ランキング

\*ラグビーワールドカップ2019出場国のランキング（2019年10月21日付）

順位	チーム	得点
1	ニュージーランド	92.47
2	イングランド	89.74
3	ウェールズ	89.37
4	南アフリカ	88.55
5	アイルランド	84.45
6	オーストラリア	81.90
7	フランス	80.88
8	日本	79.28
9	スコットランド	79.23
	アルゼンチン	78.31

②

上記①にもありますが、ジャパンがティア1（ジャパンはティア2に所属）に勝つ確率は限りなく低いのです。今回の大会までのティア1国との対戦成績は90戦6勝1分け83敗でした。アイルランドには10戦全敗、スコットランドには1勝10敗でボロボロ状態（写真①）でした。それが今では世界ランク8位（10/21現在：写真②）に君臨しています。

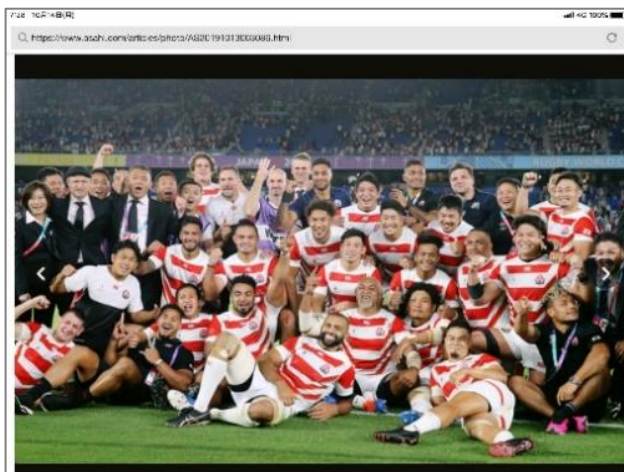
10月13日（日）、運命のスコットランド戦は、三重県賢島でグランピング（写真③～④）をしながらの観戦となりました。



③



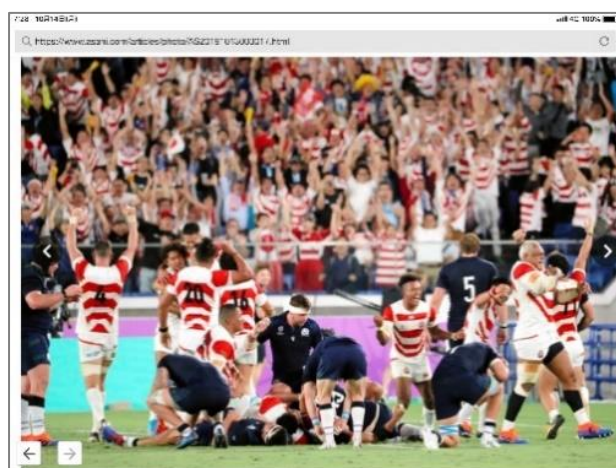
④



⑤



⑥



⑦

結果は皆さんご存じの通り、28×21のワントライ差で日本の勝利となりました。これで念願のプールA 1位（勝ち点19）で堂々の決勝トーナメント進出です。2015年のワールドカップの際の3勝は奇跡に近い勝利と言われていました。当時息子が大学でラグビーをやっており、大学からの派遣で宮崎県のジャパン合宿に手伝いに行ってきた際、「あんな練習してたらそりゃ勝つわ」、「うちの大学の練習の厳しさは有名やけど、それ以上やったわ！」と呟っていたことが印象に残っています。

今回の日本の合宿も相当に厳しいものでであると噂されておりました。特に練習を重ねた強力なスクラムと、倒れながらギリギリのところを渡すオフロードパスは、強豪のスコットランド戦で見事にはまりました。後半になると思うようなプレーができず、相手フランカーがエキサイトしてジャパNSTANDオフの田村選手に蹴りを入れるという反則まがいの行為をしましたが、それも思うように得点できない相手選手の焦りの表れでしょうか（写真⑧：試合後リーチ主将が相手に日本刀を贈って友好を深めました）。最後のカウントダウンの時は私も思わず大きな声が出ました。そして山中選手が蹴り出しノーサイド。2015年の南アフリカ戦は自宅でAM3時頃に一人で涙を流しながら勝利の瞬間に絶叫して近所迷惑になりましたが、今回はグランピング参加者8名と笑顔でハイタッチとなりました。



⑧

日本の強さが本物であり、ワクワクしながら勝利を確信できたことが前回との違いでしょうか。世界的スポーツでいつも思うのですが、ヘッドコーチが外国人になると日本の団体スポーツチームは劇的に強くなります。元々の勤勉さにチームワークが重なるからだと思います。バスケットボールでも同じ現象が起きています。日本人は集団行動は得意ですが、チームワークは苦手な民族です。味方の長所を伸ばし、短所を補うこと。これがチームワークの定義です。加えて時間と苦しみとの共有はチームワークの醸成にとって不可欠のようです。今回のラグビーワールドカップ2019ではそのことを大いに学ばせて頂きました。

その後決勝リーグでは因縁の南アフリカ戦でした。過去1勝1敗ですが、そもそもニュージーランドと共に優勝候補に挙げられている強豪です。私の中では優勝候補NO2でした。しかも今回は日本をよく研究しており、プライドにかけて試合に臨んできました。結果は3×26で完敗でした。日本のフォワードは既に満身創痍で、見た目にも体がボロボロであることがプレーを見ていて感じられました。ベスト4はニュージーランド、ウェールズ、イングランド、南アフリカです。私はニュージーランドが3連覇を果たし、2位南アフリカ、3位イングランド、4位ウェールズと予測しつつも、できれば日本に勝利した南アフリカに優勝して欲しかったところですが、結果見事に南アフリカが優勝し幕を閉じました。

多くの感動を頂いたブレイブ・ブロッサムズ（ジャパンラグビー）に感謝したいと思います！

**“感動を有難う！”**